

平成 27 年度 札幌市ひきこもり地域支援センター設置運營業務

札幌市ひきこもり地域支援センター  
状 況 報 告 書

公益財団法人北海道精神保健推進協会



はじめに

公益財団法人北海道精神保健推進協会(以下「当法人」という)では札幌市より「札幌市ひきこもり地域支援センター」(以下「当センター」という)の運営委託を受け、平成27年10月より本人や家族等からの相談を受けるとともに関係機関とのネットワーク構築及び一般市民等に対する普及啓発などを行ってきた。

平成27年度の相談実績は半年間で新規相談が160件あり、これまで当法人が行ってきた「北海道ひきこもり成年相談センター」の1年間の相談実績と比較しても多い状況である。これは、札幌市内の関係機関にリーフレットを配置し、当センターの存在が札幌市民に知られ『身近に相談できる場所』と認知されているためと考えている。

当センターは札幌市においては18歳未満の「児童期」及び18歳以上の「成人期」のひきこもり状態にある本人や家族等を対象としている。一つのケースに複数の問題が重複している場合もあり、医療、保健、福祉、教育、就労等の関係機関と情報交換を行うとともに適切な支援方法について検討を重ね、状況に応じた多様な支援体制を構築することが必要である。また、年単位にわたる長期の支援が必要になる覚悟を持ち、各ケースのペースを尊重しつつ、動きだすタイミングを待ち、支援を途切らせずに取り組むことも必要と考えている。

平成27年度の具体的な実施状況は以下のとおりである。

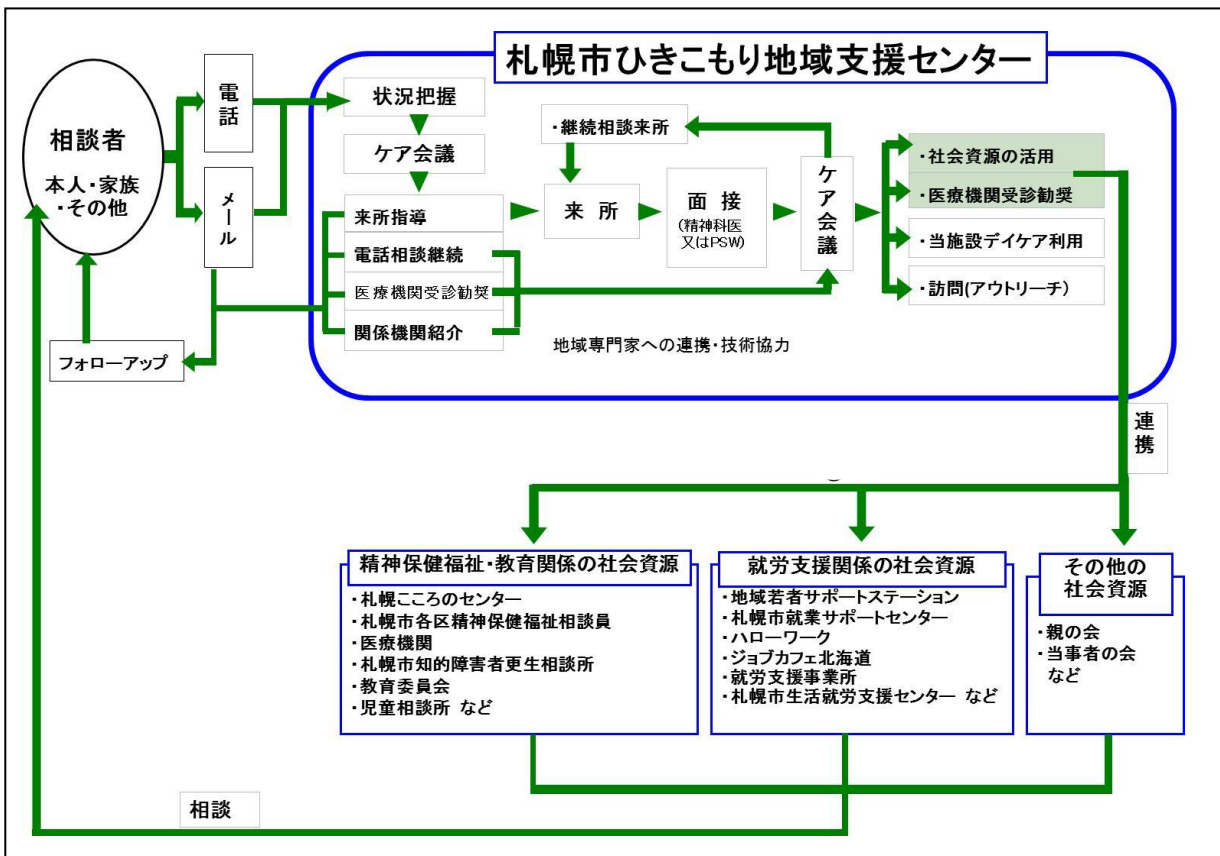


図1 相談支援の流れ

## 1. 相談支援実施状況

当施設では、平成27年10月1日より、札幌市ひきこもり地域支援センターの運営を受託している。

平成27年度（6か月間）の支援実績は以下のとおりである。

### (1) 相談支援概要

ア. 相談件数 (単位:件)

相談件数計	498
新規相談	160
継続相談	338

イ. 相談方法別内訳

	新規	継続	総計	構成比(%)
電話	121	91	212	40.5%
来所	23	119	142	27.2%
メール	16	123	139	26.6%
アウトリーチ	0	5	5	1.0%
小計	160	338	498	
連携	-	20	20	3.8%
ケア会議	-	5	5	1.0%
小計	-	25	25	
総計	160	363	523	

○当年度の相談延べ件数は、498件であり、平成27年度の新規相談者は160名であった。

○相談方法としては、「電話」が最も多く40.5%を占める。次いで、「来所」は27.2%、

「メール」は26.6%となっている。

※ アウトリーチ

延べ回数	実人数
5回	4名

ケース	実施日
A	平成27年12月
B	平成28年1月
C	平成28年2月・3月
D	平成28年2月

○訪問支援については慎重に行う必要があり、本人及び家族へのアセスメントを十分に行ったうえで実施している。

ウ. 相談時間

(単位:回)

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	53	74	67	18	212	92:00	26分
来所	0	1	6	135	142	178:20	1時間15分
メール	77	34	28	0	139	37:50	16分
アウトリーチ	0	0	0	5	5	7:15	1時間27分
連携	9	4	6	1	20	8:23	25分
ケア会議	1	3	1	0	5	1:40	20分
計	140	116	108	159	523	325:28	37分

## (2) 相談者の状況

### ア. 相談者内訳

(単位:件)

	件数	構成比 (%)
本人	28	17.5%
父	22	13.8%
母	63	39.4%
両親	8	5.0%
兄弟姉妹等	11	6.9%
配偶者	1	0.6%
その他	27	16.9%
計	160	100.0%

○主な相談者は「父・母」「両親」が58.2%を占める。「本人」からの相談も17.5%あり、75.7%が本人及び親の相談であった。

○「その他」の内訳は、他支援機関からのケース紹介や相談が16件、祖父母5件、叔父・叔母3件、知人・友人等の相談である。

### イ. 相談方法別内訳

(単位:回)

	電話	来所	メール	計
本人	20	3	5	28
父	16	4	2	22
母	51	9	3	63
両親	1	7	-	8
兄弟姉妹等	6	2	3	11
配偶者	1	0	0	1
その他	24	0	3	27
計	119	25	16	160

### (3) 当事者の状況

#### ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比(%)
20歳未満	19	6	0	25	15.6%
20歳以上～30歳未満	38	7	0	45	28.1%
30歳以上～40歳未満	37	15	0	52	32.5%
40歳以上～50歳未満	21	5	0	26	16.3%
50歳以上～60歳未満	4	1	0	5	3.1%
60歳以上	1	0	0	1	0.6%
不明	1	4	1	6	3.8%
計	121	38	1	160	100%

- 「20歳未満」の内訳は、「12歳～15歳」が8名、「16歳～19歳」は17名となっている。
- 「20歳以上～30歳未満」が45名(28.1%)と「30歳以上～40歳未満」が52名(32.5%)を合わせて、60.6%となり、ひきこもり当事者の6割を占める。
- 「40歳以上」以降が全体の20%以上を占めており『ひきこもり』が若者だけの問題ではない事が分かる。
- 最少年齢は12歳、最高年齢は75歳となっており、男性の平均は30.7歳、女性の平均は30.4歳、全体平均は30.6歳であった。
- 「不明」には、電話相談での中断等で当事者が確定しない相談が6件あった。

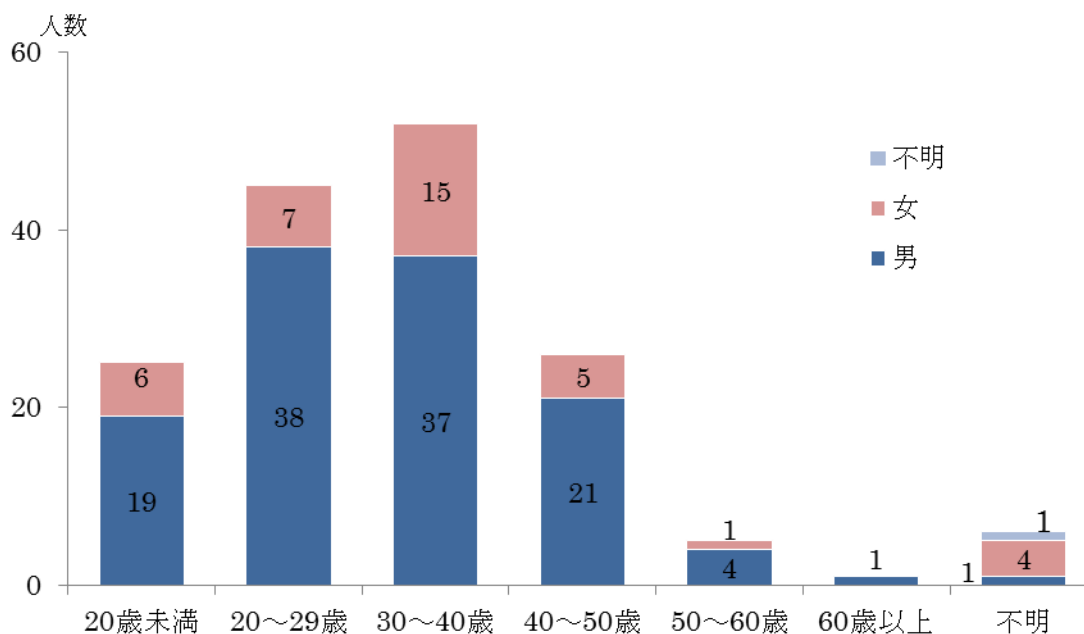


図1 当事者の年齢区分・性別状況

イ. 当事者の居住地

(単位：件)

本人居住地	件数	構成比(%)
札幌市内	25	15.6%
札幌市白石区	19	11.9%
札幌市豊平区	10	6.3%
札幌市厚別区	13	8.1%
札幌市手稲区	6	3.8%
札幌市清田区	6	3.8%
札幌市中央区	10	6.3%
札幌市東区	26	16.3%
札幌市西区	11	6.9%
札幌市南区	11	6.9%
札幌市北区	22	13.8%
(道外)	1	0.6%
計	160	100.0%

○平成 27 年度の相談のうち、「東区」からの相談者は全体の 16.3%ともっとも多く、次いで「北区」は 13.8%、「白石区」は 11.9%となっている。市内 10 区のいずれか確定しない相談が 25 件あった。

○札幌市内、全域から相談が寄せられている。

○「道外」の 1 件については、本人は他県在住だが、住民票は札幌市というケースであった。



#### (4) 相談目的

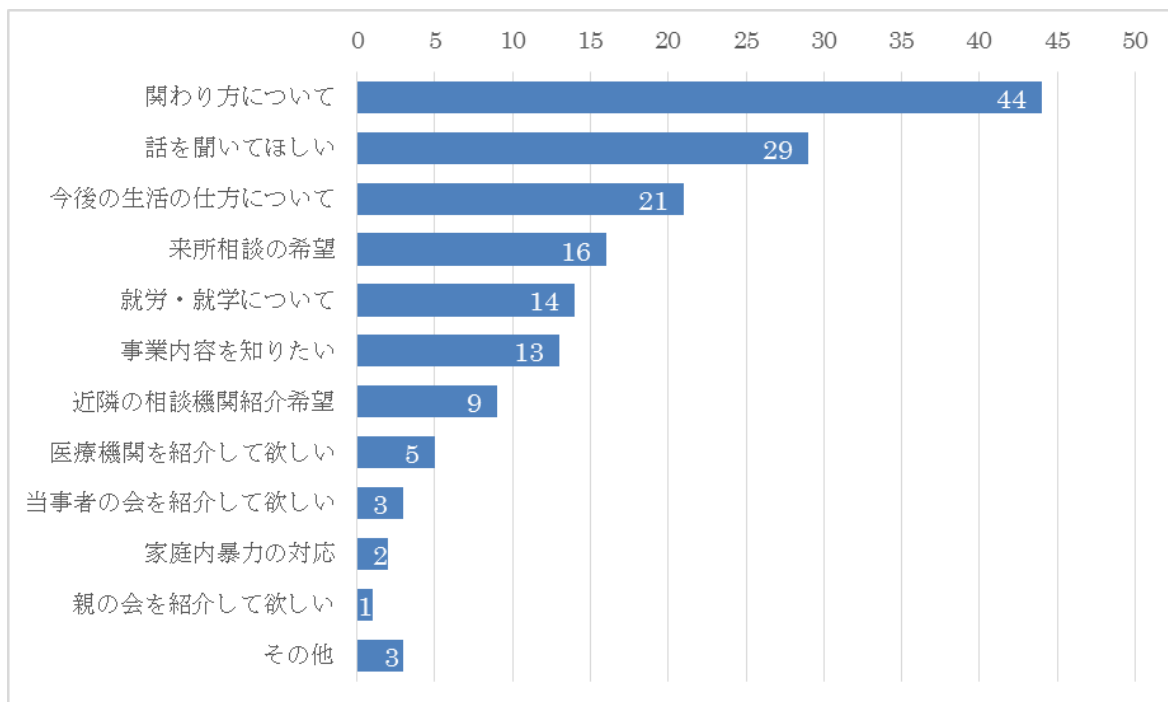


図2 相談目的内訳

○相談理由は多岐にわたっている。「関わり方について」が、27.5%と全体の4分の1を占める。また、「その他」には、「相談の中断」、「他機関からの照会」などがあげられる。

#### (5) 他機関への相談経験の有無

	件数	構成比(%)
相談経験あり	108	67.5%
相談経験なし	3	1.9%
不明	49	30.6%
計	160	100.0%

- 当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が108件(67.5%)であり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが伺える。
- 「相談経験あり」の内訳は、医療機関が最も多く(56件)。区役所・役場(14件)、精神保健福祉センター(道・札幌市)(13件)、若者サポートステーション(13件)、親の会(12件)、教育機関(9件)、当事者団体(8件)、生活困窮者支援(5件)、ハローワーク(5件)、カウンセリング機関(4件)、相談支援事業所(4件)などがある。

(6) 相談転帰

転帰	件数
終了	71
助言終了	(61)
関係機関紹介	(10)
継続	89
来所を指導	(53)
電話相談継続	(36)
総計	160

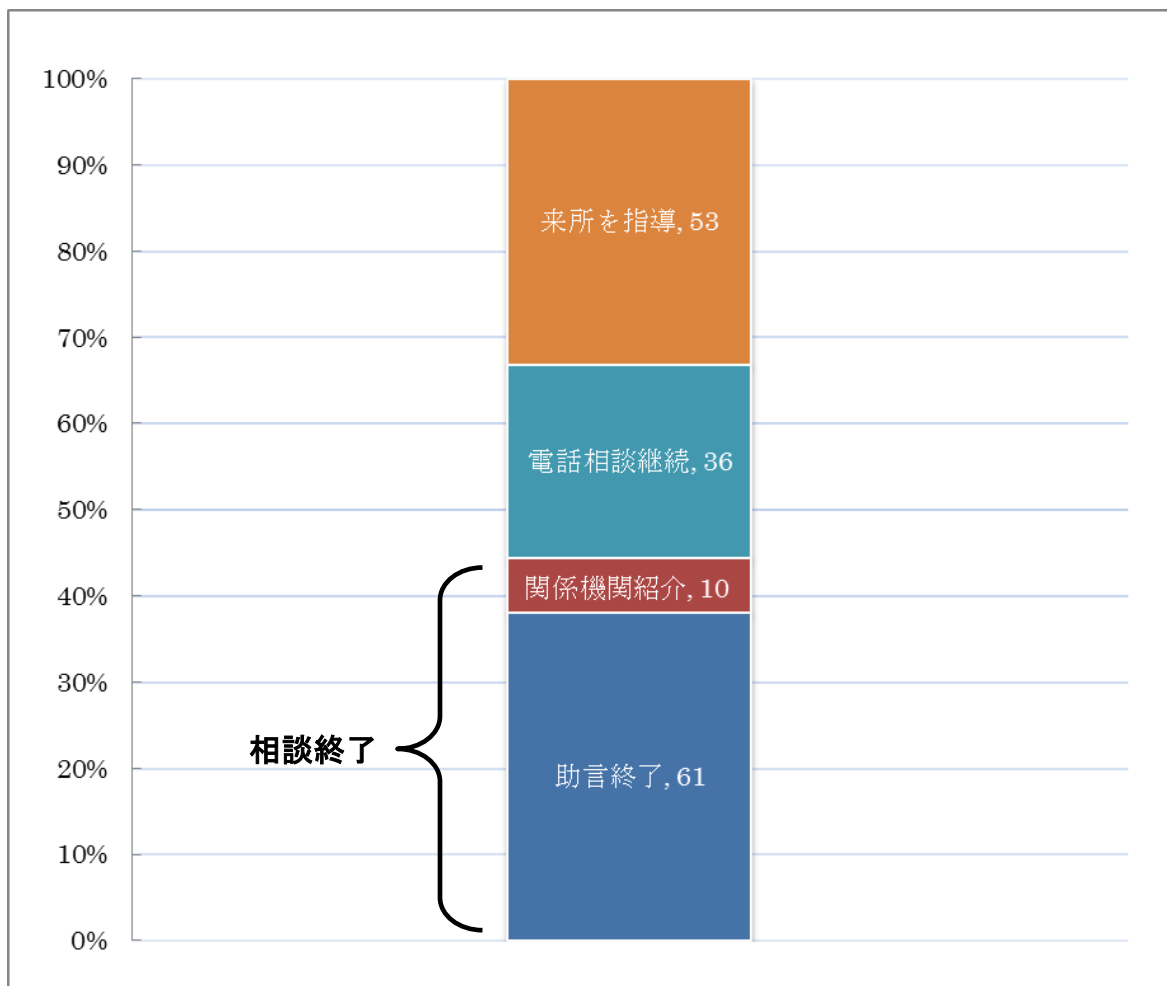


図3 初回相談の転帰

- 初回相談で終了したケースは71件(44.3%)で、そのうち「助言終了」が61件であった。
- 「電話相談継続」が36件、来所に切り替えた相談が53件、計89件(55.7%)が継続相談を要すると判断し対応した。
- また、助言終了後も再度、電話相談につながるケースもあった。

## (7) 連携状況

連携先	件数	構成比 (%)
医療機関（精神科）	5	16.1%
札幌市生活就労支援センター	5	16.1%
札幌市若者支援総合センター	4	12.9%
札幌市児童相談所	4	12.9%
札幌市地域包括支援センター	3	9.7%
心理臨床相談機関	3	9.7%
相談支援事業所	2	6.5%
社会福祉士事務所	2	6.5%
北海道精神保健福祉センター	1	3.2%
地域活動支援センター	1	3.2%
相談支援パートナー	1	3.2%
計	31	100.0%

○連携先 31 件のうち、他支援機関からのケース相談や紹介が 10 件、当センターより他支援機関へケース相談等を行ったのが 21 件ある。

(8) ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
平成 27 年度	1 名

○ひきこもり相談から当法人のデイケア通所につながったケースは1名である。

イ. ひきこもり外来状況

年 度	延べ回数	実人数
平成 27 年度	31 回	9 名

○ひきこもり相談からひきこもり外来につながったケースは7名であった。

○外来に繋がった事により、『ひきこもり』状態から脱する一歩を踏み出したといえる。

## 2. 支援ネットワークの構築等

関係機関に対する事業概要説明をはじめ支援機関との支援者連絡会、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。

支援ネットワークの構築として、他の研修と連携し、「札幌市ひきこもり地域支援センター」の相談会を行った。状況は以下のとおりである。

### (1) ネットワーク構築状況

月	日	実施内容	備考
11	16	札幌市子ども未来局子ども育成部長来所	2名
11	16	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議 事業説明	
12	9	ひきこもりサポーター養成協議会 第1回	(3団体)
12	10	札幌市オンブズマン発意調査	3名
12	10	札幌市保護自立支援課、札幌市生活就労支援センター実務者打ち合わせ	8名
1	27	札幌市豊平区第3地域包括支援センター職員来所	3名
2	4	ひきこもりサポーター養成協議会 第2回	(3団体)
2	15	地域包括支援センター業務連絡会議	2名参加
3	17	札幌市生活就労支援センターネットワーク会議	1名

### (2) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
12	9	当事者及び家族に対する模擬心理教育	参加者：当事者4名、家族4名
3	26	平成27年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会	参加者59名 札幌市27名、札幌市外32名

### (3) 講師派遣等状況

月	日	実施内容	備考
11	16	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会 子ども・若者支援セミナー 主催：札幌市若者支援総合センター	2名参加
11	16	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	2名参加
11	24	札幌市精神保健福祉相談員事業説明	2名参加
3	2	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	1名参加

### (4) 外部研修参加状況

月	日	実施内容	備考
10	24	『ひきこもりリフューチャーセッション』 主催：NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	2名参加

## 3. 普及啓発

### (1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
9	30	北海道新聞取材	
10	1	北海道新聞・毎日新聞記事掲載	
10	7	朝日新聞記事掲載	
11	4	STVラジオ収録	
11	14	STVラジオ放送	
11	16	さっぽろ子ども若者地域支援評議会での事業説明	
11	16	広報さっぽろ 記事掲載	
11	24	札幌市精神保健福祉相談員へ事業説明	
3	10	「ひきこもり講演会及び相談会」北海道新聞記事掲載	
3	12	ひきこもり講演会「ひきこもりについて」及び相談会 実施	参加者 57名
3	13	「ひきこもり講演会及び相談会」北海道新聞記事掲載	

## (2) リーフレットの作成配布

講演会や各種会議などを活用し、ひきこもり本人及び家族に向けたリーフレットを配布した。

月	日	実施内容	備考
11	16	リーフレット配布	札幌子ども若者地域支援協議会
11	23	リーフレット配布	札幌市精神保健福祉相談員 事業説明
1	5	リーフレット送付	ひきこもり研修会案内先へ配布
1	27	リーフレット配布	札幌市豊平区地域包括支援センター
1	29	リーフレット送付	札幌市担当部局
2	5	リーフレット送付	ひきこもり講演会案内先
3	28	リーフレット及び、ひきこもりサポーター 地域総合育成事業テキスト配布	講演会にて、リーフレット、 テキストを配布

## (3) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解と支援団体、相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年度	件数	備考
平成27年度	7,665件	

○平成27年10年1日のアクセス数は307件で、1日あたりのアクセスもっとも数が多かった。これは同日に、開所についての新聞報道があった影響もあると思われる。